東光寺小学校学校運営協議会通信　No.36

令和５年　１０月５日

東光寺小学校学校運営協議会発行　会長　奥住　方彦

花と笑顔と地域の見守り

東光寺小学校副校長　岡元　大輔

４月に副校長として着任しました、岡元　大輔と申します。

本校の昇降口正面には大きく「花と笑顔と地域の見守り」と書いてあります。コミュニティスクールとしての本校のよさは、この言葉の中に凝縮されていると感じます。

《花》

東光寺小学校の敷地内は、どの季節も花が咲いており、花壇は校友会の皆様をはじめ、地域の皆様の協力で管理されております。菊をはじめとした児童の植物栽培の応援もしていただいています。

《笑顔》

大坂上中学校区育成会が主催する「ふれあいまつり（７月２２日開催）」や、東光寺小学校 PTA が主催する「東光寺ウォークラリー（１０月２１日開催予定）」をはじめとした、子供たちが楽しめるための様々な行事を準備・運営してくださっています。学校運営協議会の委員の皆様が運営に携わってくださっています。

《地域の見守り》

５年生の田植えの学習や、３年生の梨園での学習、玉ねぎの収穫等、地域の皆様が子供たちの成長のために主体的に教育活動に関わってくださっています。児童は、地域の中で、様々な体験を通して伸び伸びと学んでいます。

また、PTA の皆様・地域の皆様による登下校時のパトロールや、学校運営協議会委員の東光寺駐在所・平柳さんによる登下校時の交通安全指導など、児童が安心して安全に過ごせるように力を尽くしてくださっています。

私にとって、コミュニティスクールで勤務するのは初めての経験でしたが、４月の学校運営協議会では、委員の皆様が、子供たちがより充実した学校生活を送るために必要なことは何かを真剣に話し合う姿に圧倒されるとともに、本校には学校に強い味方がいてくださるのだと感動しました。

これからも、東光寺小学校が保護者・地域と一体となって教育活動を展開していけるよう、教職員と力を合わせながら頑張ってまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

～各部からの活動報告～

【安全・安心部】

非日常から日常へ（地域とともに）

コロナも５類へ移行し、制限の無い日常の生活が戻ってきました。マスクを外す人々が多くなり、口元の見える、笑顔の輝く生活の再スタートです。

日常ではない非日常の生活

コロナが世界へ蔓延してから数年間。世の中はまさしく非日常の世界でした。非常事態宣言の発令。外出の制限。旅行の自粛。アルコールを伴った飲食の禁止。他府県ナンバーの誹謗中傷等々。街や店から人の姿が無くなり重く苦しい時間が流れました。誰もが経験したことのない手探りの日々。でも、多くの記録と記憶が残り、この貴重な経験は次の世代、またその次の世代へと必ずや引き継がれ活かされていくものと信じています。しかし、日常に戻った今日、悲しいかな様々な非日常が我々の生活を脅かしていることも事実です。数十年に一度と言われる自然災害の猛威。ヒビの入り始めた日本の安全神話。まさかこの地域で。まさかこの近所で。まさかあの人が。そうです。まさかの坂は皆さんの身近に潜んでいるのです。予告無し、待ったなしに訪れる犯罪。突然現れるまさかの坂。

東光寺小学校を中心として平和のこの地域を、安全、快適な街として次の世代に引き継ぎ、そして将来を担う子ども達を守る為、安全安心部として何が出来、何をすべきか。学校と地域との連絡を密に、皆様の御力を頂き自問自答しながら活動を進めて参ります。

（平柳　篤）

【学習部】

５月１３日（土）学校公開を訪れて

校門を通ると一番にパトカーが目に入ります。東光寺小の学校公開の特徴でしょうか、学校運営協議委員の平柳さんが来てくださっている事が分かります。地域の警察がこれだけ巡回してくれ、見守ってくれている学校は、日本全国でもそうはない、と感じます。

学校公開では、１年生から６年生まで全クラスを見させてもらっています。普段児童館で遊んでいる子どもたちが、学校ではどの様な姿で学んでいるのか見たいと思っています。また、児童館を利用しない子が学校でどんな様子なのかも気にしています。

１年生の教室はすぐ分かります。廊下に保護者の皆さんが溢れ出ていて熱気を感じるからです。子どもたちも後ろを振り返り家族が来ているか気が気でない様子。授業どころではない感じです。未就学児がお兄ちゃんお姉ちゃんの席の横にいたり、退屈して教室の片隅に座り込んだりしています。

２年生も活気がありますが、授業がしっかりと落ち着いてできています。昨年１年間、学校生活していた経験は大きいと感じます。教室の後ろから見ていると私の姿に気が付いて、小さく手を振ってくれる子もいて、とても可愛いです。

３，４年生は、元気いっぱい。私の姿を見つけると、両手で人差し指をだけ合わせ上に動かし「浣腸～！」のゼスチャー（私が館長〈かんちょう〉なので）。教材のプロペラを動かし顎に当て「髭そり～」など活発に動いています。廊下ですれ違うと「何でいるの！」と言いつつも「次〇〇の授業だから見に来て」とも言ってくれます。

学校を半分くらい回ると、副校長先生に２回程すれ違います。全体を回りとても忙しいそうです。一方、校長先生には１度お会いしました。穏やかな笑顔でゆっくりと見回っている感じです。そして、学校運営協議員の三好さんに会うのもいつもこの頃です。「今度、花壇の掃除、水回りもきれいにしておこう」など環境にも気を配って見てくれています。

５，６年生は本当に静かに授業が行われています。私と目が合っても顔色一つ変えません。低学年に比べて、体も大きくなり、教室も机も小さく見えてしまいます。

５年生の「動き出せオリジナルキャラクター」の授業では、アニメの仕組みの理解として、タブレットで写真をコマ撮りして、連続再生をして動画にし、同級生と見せ合っていました。IT 機器を使った授業で、子ども達がとりわけ楽しそうな様子が印象的でした。

どの授業も先生方の準備が大変だっただろうな…と思いました。廊下には子どもたちの絵や書道の文字などが、きれいに飾ってあり、全ての子が主役になれる工夫が見られました。５月という時期、本当に忙しい中で、準備し学校公開に臨んでいるのだなと感じました。

学校公開に参加後、最後に見えたのは、校庭の芝生です。市内小学校１７校中、東光寺小と滝合小の２校だけに校庭に芝があります。学校運営協議員の久松さんと芝の管理をしてくれる方々の努力の結晶です。種まきでは、鳩や雀など鳥たちから種を守り、自然と共存し成長させてくれました。青々とした芝がまた、東光寺小学校の特徴だと感じました。

（さかえまち児童館　佐々木　哲）

【環境部】

芝生の雑草のご紹介

４月から、ＰＴＡ学級ボランティア管理委員会を中心に、保護者、学校、校庭開放委員会、地域の皆さまによるみどりの学び舎応援隊の活動が４ヶ月ぶりに再開しました。

１１月にオーバーシード（冬芝の種まき）を行い、冬芝を養生させてきましたが、一部芝生が生えていない部分、既に雑草に負けている部分などが見受けられます。

今回は、その毎年毎年戦っている雑草について、ご紹介致します。

下記は、代表する雑草になり、東光寺小学校の芝生でも数々見受けられます。ぜひ、覚えてください。

（久松　秀樹）